



第6回世界のウチナーンチュ大会開催！

第6回世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局 次長 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 主幹 与那嶺 隆

世界のウチナーンチュ大会とは

沖縄県では、戦前戦後を通じ多くの県民が移民として海外へ渡りました。海外に渡ったウチナーンチュ（沖縄県系人）たちは、移住先でさまざまな困難に遭遇しますが、不屈の精神と持ち前のおおらかさでその困難を乗り越え、現地の人からも信頼され、地域社会に根付いていきました。今ではその子孫も含め海外に約42万人の県系人がいるといわれています。ウチナーンチュはどの地域でも沖縄県人会という組織を作って相互扶助、親睦、文化継承などを目的として活動しており、現在大小93の団体が県に登録されています。主な地域として、北米ではアメリカ（特にハワイ）、カナダ、南米ではブラジル、ペルー、アルゼンチン、ボリビア、アジアではフィリピンなどがあります。

こうした沖縄県の貴重な人的財産である海外県系人の功績を称えるとともに、ウチナーネットワーク（沖縄県系人同士のつながり）の確立と発展、次世代への継承などを目的として、県主催により1990年8月に第1回目の世界のウチナーンチュ大会が開催され、約2,400人が海外から参加しました。

大会は概ね5年ごとに開催され、2016年、第6回大会が「ウチナーの 躍動・感動 世界へ響け！」をキャッチフレーズに、10月26日（水）から30日（日）までの5日間、那覇市の野球場「沖縄セルラースタジアム那覇」を主会場に開催されました。29の国・地域から大会史上最多の7,353人が来県し、地元県民との交流を通して、ウチナーンチュ同士の絆を深めました。

沖縄においては、昔からお互いを助け合う地域社会があり、「ゆいまーる」といわれる相互扶助の精神で人と人が強く結びつきあっていく風土があります。移住したウチナーンチュは異国の地においてもウチナーンチュ同士互いを助け合って強く結びつき、また、三線音楽や伝

統舞踊、エイサー、空手、料理など沖縄独自の文化を受け継ぎ、遠く離れた故郷沖縄の家族や親戚など同胞のことを想っています。沖縄では祖先崇拝の信仰があり、盆と正月のほかに清明祭（二十四節気の一つ「清明（シーミー）」の季節に行われる行事で、新暦の4月頃、一門そろって墓前で先祖の霊を供養する。）などでも家族や親戚が集まります。ウチナーンチュにとっては、一族が集まって親睦を深め、繁栄を祝うことは自然の風習です。5年に1度のウチナーンチュ大会は、移民1世や2世以降の子孫などのウチナーンチュが故郷に帰って、ルーツやアイデンティティー、ウチナー文化を確認し、親戚やウチナーンチュ同士で親睦を深め、互いの繁栄を祝う大切なイベントとなっています。

前夜祭パレード・開会式

開会式を翌日に控えた10月26日（水）、恒例の「前夜祭パレード」が那覇市の国際通りで行われました。約5,800人の海外・県外ウチナーンチュが各国・地域ごとに独自の衣装を身に纏い、伝統的な音楽や踊りを披露しながら、国際通りを練り歩きました。

沿道からは大きな拍手や「おかえりなさい」、「まっちょーたんどー。（待っていましたよ。）」など歓迎

の温かい言葉が掛けられ、久々の再会に抱擁を交わす感動の場面があちこちで見られ、世界のウチナーンチュ



前夜祭パレードの様子（10/26）



開会式の様子（10/27）



と県民が一体となって盛り上がりました。

翌10月27日(木)の開会式は、中高生のフレッシュな開会宣言と海外参加者も含めた約800名による三線の一斉演奏で華やかに幕を開けました。海外や国内、県内から集まった1万3千人以上のウチナーンチュで会場が埋め尽くされる様は圧巻で、国旗入場の際、各国のウチナーンチュが大きな歓声を上げ、喜びを爆発させる場面は毎回感動的です。海外県人会長や海外功労者、次世代代表やウチナー民間大使などの紹介では、ウチナーネットワークが確実に世界に広がっていることを改めて実感します。

式の後半は、夏川りみなど人気アーティストらのスペシャルライブを楽しみ、締めくくりには全員で「ていんさぐぬ花」を大合唱する沖縄らしさ満載の温かい式典となりました。

閉会式・グランドフィナーレ

大会最終日30日(日)、会場は約1万5千人の参加者で満員となり、隣接する屋内運動場「沖縄セルラーパーク那覇」では会場に入らなかった約1,200人が大型ビジョンのライブ中継を観覧するほどの大盛況の中、閉会式・グランドフィナーレが行われました。

閉会式では、主催者、来賓、海外参加者代表、次世代代表の挨拶などが行われ、世界若者ウチナーンチュ連合会代表による若者宣言と、県系3世2人と大会実行員会会長の翁長知事による「世界のウチナーンチュの日」制定宣言の際には、会場内に盛大な拍手と指笛が鳴り響き、祝福に包まれました。

大会の最後を飾るグランドフィナーレは、かりゆし58、ディアマンテス、BEGINら県出身の人気アーティストによるライブで参加者が一体となって酔いしれ、5



グランドフィナーレの様子(10/30)

年後の再会を誓い合い、5日間にわたる大会は感動に包まれ幕を閉じました。

そのほか70以上のイベントを開催

大会期間中やその前後には、市町村や国際交流団体主催の歓迎イベント、うまんちゅ大交流祭、レッツスタディ! ワールドウチナーンチュ、エイサーEXPO、しまくとうば語やびら世界大会、県人会長・ウチナー民間大使会議、ワールドウチナーシンポジウム、国際親善ゲートボール大会、空手・古武道交流演武祭、うまんちゅ三線一斉演奏、民間団体主催の多数の連携イベントなど、70以上のイベントが開催され、大会を盛り上げました。

特に、前回の第5回大会を機に発足した世界若者ウチナーンチュ連合会が2012年から海外で開催してきた「世界若者ウチナーンチュ大会」が沖縄で初めて開催され、次世代ウチナーンチュのネットワークの発展に大きく寄与しました。10月20日(木)から23日(日)にかけて県内各地を会場に、2,303名の海外と県内の若者ウチナーンチュが文化、芸能、スポーツなど各分野で交流を深めました。次回の「世界若者ウチナーンチュ大会」は2018年にペルーでの開催が決定しており、今後も彼らの活躍が期待されます。

「世界のウチナーンチュの日」制定

今回大会の大きな成果として「世界のウチナーンチュの日」の制定が挙げられます。

これまで脈々と築き上げてきた世界のウチナーンチュネットワークを継承・発展させ、今後もますます繁栄していくことを願い、10月30日を「世界のウチナーンチュの日」として決めました。県内在住の2人の若い県系3世により発案された記念日の制定は、世界中のウチナーンチュから圧倒的な賛成を得て、閉会式での制定宣言に至りました。今後、毎年県内・国内・世界各地で「世界のウチナーンチュの日」を祝うイベントが開催されることが期待されます。



「世界のウチナーンチュの日」制定の宣言をした翁長知事(中央)と県系3世の2人(両端)